

<受賞者> **表 和徳** 北海道大学病院 助教

<功績名>

臓器うっ血をターゲットとした心不全の高精度診断法及び予後予測法の構築

救急医療現場で患者さんへの身体の負担が少なく、正確に素早く心不全の診断を行うこと目指しています。

背景

- ・高齢化社会やライフスタイルの欧米化を背景に心不全患者さんが急増し、社会問題となっています。
- ・しかし、救急医療現場では心不全を正確に診断することは難しいこともあり問題となっています。
- ・心不全を簡単な方法で正しく、すばやく診断することが実現できれば、すぐに適切な治療を行うことができるので、患者さんの症状を早く改善できる可能性があります。

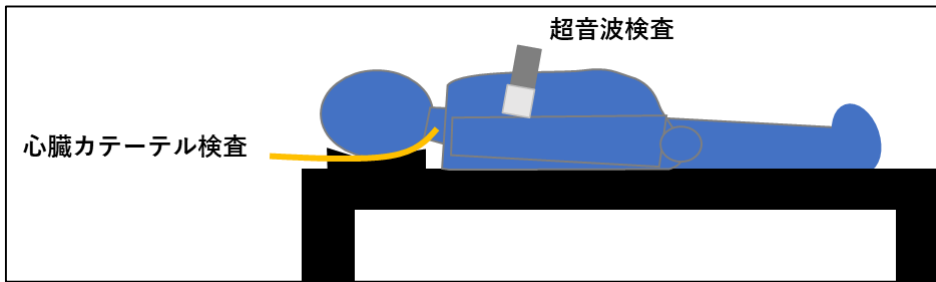
研究内容

心不全診療における超音波検査の利点とは!?

- ・**低侵襲**：患者さんへの身体的な苦痛が極めて少ない
- ・**簡便性**：医師以外のスタッフでも施行可能であり、短時間で検査が完了できる
- ・**低コスト**：医療費の節約、医療経済への負担が軽減できる



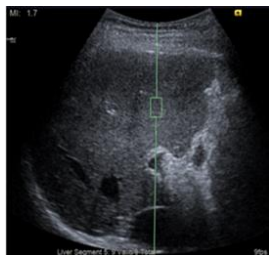
超音波検査における臓器うっ血と心臓カテーテル検査や予後との関係性を明らかにして、超音波検査による心不全の診断法を開発し、さらにその予後推定方法を確認する



超音波検査



<肺のうっ血>



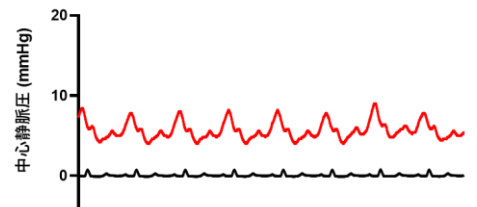
<肝臓のうっ血>

↔
どれくらい一致する!?

↔
どれくらい関連する!?

1. 心臓カテーテル検査

(心不全診断のゴールドスタンダード)



2. 予後調整

(あとどれくらい余命があるか)

本研究では患者さんの身体に負担の少ない医療で、高精度な心不全の診断方法を確認して、北海道の救急医療の質向上だけでなく、医療経済への負担軽減を目指しています。